

令和5年度 精煉方跡発掘調査 現地説明会

日時：令和6年1月20日(土) 10:00~12:00

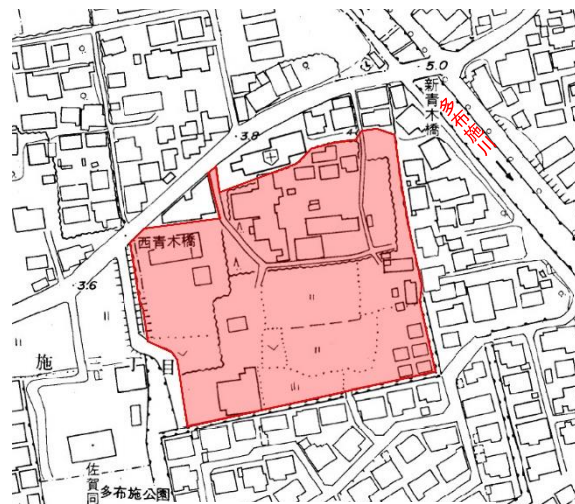
主催：佐賀市地域振興部 文化財課

調査地：佐賀市多布施3丁目

調査面積：70㎡

調査期間：令和5年12月5日

～令和6年1月31日(予定)



精煉方跡 位置図

1. 精煉方跡について

精煉方は、嘉永5年(1852)11月頃、佐賀藩が西洋の知識と技術を導入するために設けた理化学研究所のような実験施設です。この場所は、元は佐賀藩重臣の鍋島主水家が所有する屋敷地でした。

精煉方には、佐賀藩士佐野栄寿左衛門(常民)によって京都から招かれた中村奇輔・石黒寛次・田中近江・田中儀右衛門などが滞在し、洋書から学んだ最新技術の研究を行っていました。初期には主に火薬等の研究を行っていましたが、後には硝子細工・蒸気船雛形・蒸気車雛形や蒸気機関・電信機製作などの研究が行われていました。

明治期には、品川硝子で学んだ洋式ガラス製造の技術が取り入れられ、この技術は鍋島家の経営する精煉社から民間の精煉合資会社へと引き継がれました。ここでは、ランプのホヤやランプ・理化学器材・日用雑器など、様々なガラス製品が製造されていました。

2. 今年度の精煉方跡の調査について

明治6年(1873)頃の精煉方の様子が描かれた「精煉方略図」(公益財団法人鍋島報効会所蔵)に「田中氏居宅」と表示された部分の調査を、令和4年度から実施しています。

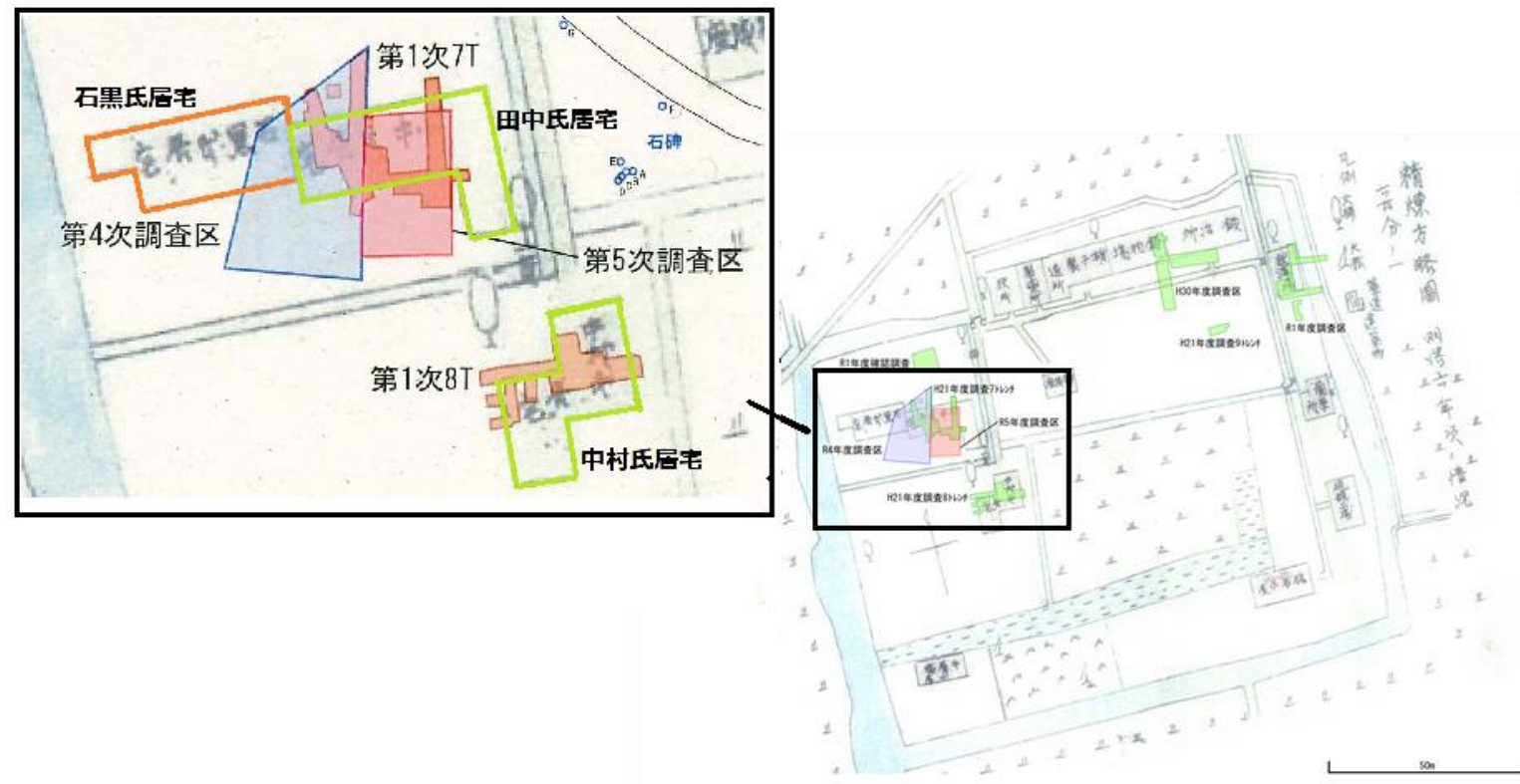
昨年度は、江戸～明治期の建物の礎石や埋甕などを検出しました。

今年度は、去年の調査区の東側を調査しており、江戸～明治期の建物関連の礎石や陶器の鉢を逆さまにして埋納した遺構などを検出しています。

精煉方跡調査区合成図
第5次調査区遺構配置図



第5次調査区全景（北東から）



第1次調査7トレンチ（南東から）

「精煉方略図」（公益財団法人鍋島報効会所蔵）・調査区合成図



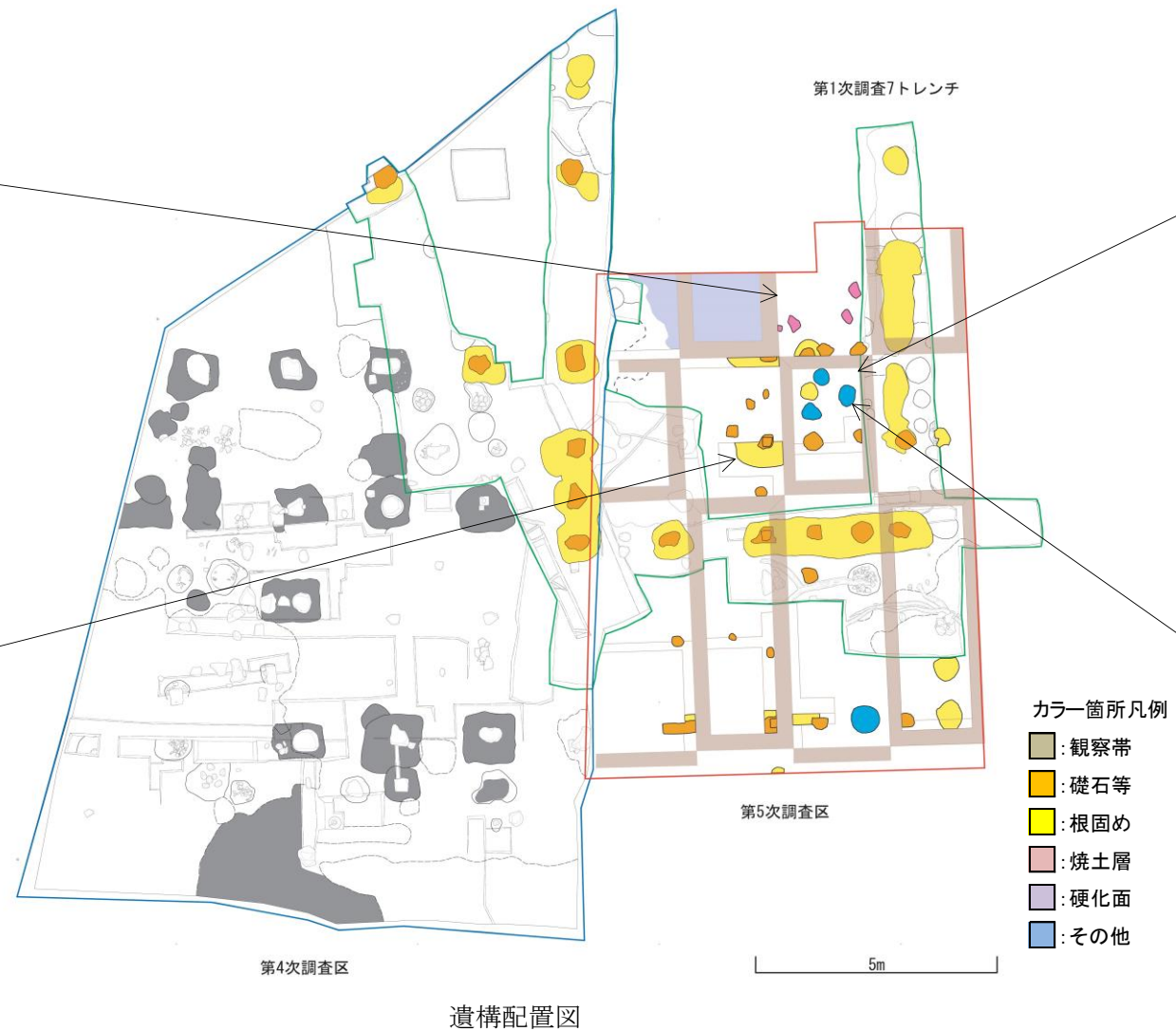
礎石及び焼土層（北西から）



礎石及びその他の遺構（北西から）



玉砂利による根固めをもつ礎石（南西から）



遺構配置図



その他の遺構（北東から）

令和5年度 精煉方跡発掘調査 現地説明会資料(文献調査編)

昨年度は、「石黒貫二其外置物帳」(慶応3年(1867)10月。鍋326-71「達帳」所収)という史料をもとに、精煉方の石黒寛次・中村奇輔・田中近江・田中儀右衛門らの住居にあった道具(かまど・蚊帳・布団など)のサイズや数量から推測できる住居の様子について紹介しました。

今年度は、①佐賀藩外から精煉方に招かれた技術者たちが、いつ頃佐賀に来たのか、②「御秘事之場所」とされる精煉方に特別に招かれて見物した人物が、精煉方の中で何を見たのか、について紹介します。

① 佐賀藩外から精煉方に招かれた人物とその時期

※ただし、年次は文献史料に初出のもの。

| 年号 | 西暦 | 月 | 日 | 人物名 | 記事の内容および出典 | |
|----|----|------|----|-----|--------------|--|
| 嘉永 | 5 | 1852 | 11 | 2 | 中村奇輔 | ○京都から来た「葉種製練方功者」の中村奇輔に「製練方」を頼む。諸道具ができるまでは文理研究のため、佐野栄寿左衛門(常民)と共に長崎へ行かせる。 (鍋島家文庫309-57「案文」) |
| 安政 | 元 | 1854 | 5 | 19 | 田中儀右衛門 | ○田中近江養子の田中儀右衛門が先月から「製練方(精煉方)」に滞在している。まずは三匁くらいの蒸気砲を製作するという。 (『嘉永七年御目通并公用諸控』) |
| 安政 | 元 | 1854 | 11 | 1 | 石黒寛次 | ○「製練方(精煉方)」の中村奇輔・石黒寛次・田中儀右衛門に御番方御用の蒸気軍艦製造も命じるので、扶持が下される。 (鍋023-50「私記」) |
| 安政 | 2 | 1855 | 6 | 18 | 田中近江 福谷啓吉 | ○オランダ蒸気船が渡来するので、船の運用・諸技術の伝習のため、本島藤太夫・佐野栄寿左衛門(常民)・中村奇輔・石黒寛次・田中近江・田中儀右衛門・福谷啓吉・馬場磯吉に長崎出張が命じられる。 (『幕末軍事技術の軌跡 佐賀藩史料』松乃落葉』) |
| 安政 | 3 | 1856 | 3 | 22 | 駒谷嘉平 | ○須古鍋島家から、「精練方(精煉方)」細工人中村奇輔・田中近江・駒谷嘉平に褒美が与えられる。 (県図書収集資料022「日記〔須古鍋島家編〕」) |

② 精煉方に招かれて見物した人物と中の様子

| 年号 | 西暦 | 月 | 日 | 人物名 | 記事の内容および出典 | |
|----|----|------|---|-----|--------------------------------------|--|
| 安政 | 2 | 1855 | 3 | 24 | 諫早武春 | <p>○諫早武春(諫早家15代当主。嘉永5年(1852)、6歳で家督)が「精煉方(精煉方)」で珍しい細工物を見たがっているが、「御秘事之場所」なので、表向きは拝見が禁止されている。このため、極内々に少将様(鍋島直正)に同道して、硝子細工・蒸気船雛形・蒸気車雛形・「西洋学之奇細工物」等を見る。</p> <p>(諫早家文書「日記(御次)」)</p> |
| 安政 | 3 | 1856 | 3 | 19 | 諫早茂孫 諫早武春 民 澄 鍋島直大 恒姫 | <p>○諫早茂孫(しげたね。諫早家14代当主。嘉永5年(1852)隠居)・武春・民(みん。武春母。直正妹)・澄(武春祖母)が内々に「精煉方(精煉方)」へ招かれる。</p> <p>○民・澄は、先に「精煉方役宅佐野栄寿左衛門(常民)殿宅」に入り、鍋島直大・恒姫(直大妹。のち武春室)の到着を待って、一緒に細工場で見物した。</p> <p>○その後、茂孫・武春もお忍びで佐野宅に入り、直大の見物の後に精煉方で「硝子細工其外蒸気船・万年時計色々」を見物し、佐野宅に帰って弁当を食べた。</p> <p>(諫早家文書「日記」)</p> |
| 安政 | 3 | 1856 | 3 | 21 | 鍋島茂真室 雍 | <p>○鍋島茂真(しげまさ。安房)室・雍(茂真娘)が神野御茶屋に行った後、「精煉方(精煉方)」の「田中近江宅」に立ち寄り、「珍敷細工物」や川に浮かべた「蒸気船」の他、「硝子細工」を見た。</p> <p>(県図書収集資料022「日記〔須古鍋島家編〕」)</p> |